

放射能吸着紙を開発

凸版印刷 汚染防止下敷きに

凸版印刷株式会社は、紙にゼオライトを重量比八〇%以上の高密度で充填した放射能セシウム吸着ゼオライト機能紙「F・S・ZEO」(エフエス・ゼオ)のラインアップを拡充した。薄型の特許シートを貼り合わせ、敷設したゼオライト機能紙の回収性を高めた軽量タイプと、高強度の特許シートを貼り合わせ、耐加重などの強度を高めた高強度タイプ(二種類の新製品)の二種類を開発。最終処分場や高圧洗浄による除染の際の下敷き、フレコンバック(土嚢等)に使用される袋)などの



内袋用途としての利用を見込む。

「F・S・ZEO」は、東北地方の最終処分場において本格採用され、放射性物質を含んだ煤塵から放射性物質の流出が起きた際の土壌汚染を防止させるための下敷きとして活用されている。また福島県川内村で実施されている土砂や水などに含まれた放射性セシウム拡

散防止の実証実験でも、ゼオライト機能紙が活用されている。「F・S・ZEO」による汚泥の除染で、九九%以上の放射性物質を除去し処理水が排水可能な水準まで低減できた採用事例もある。ロール状の紙であることから施工が非常に容易で、ゼオライト粉とパルプで構成された環境に優しい素材である。

経験者、新年度募集

規制庁 保安検査官など中心に

原子力規制委員会が九月十九日に正式発足し、事務局を務める原子力規制庁は来年度からの職員(経験者)募集を八日から開始した。

同庁には旧原子力安全・保安院などから職員が異動しているが、今後さらに原子力安全規制の充実・強化を図るため、経験者を募っているもの。

業務内容は、①原子力保安検査官②原子力防災専門官③核物質防護対策官④原子力施設の安全規制に関する事務⑤原子力施設の安全に係る国際関係事務の実務経験を有する技術系職員。採用予定数は各分野の合計で若干名ながら、採用の中心は原子力保安検査官。勤務地は原子力規制庁本庁(東京都港区六本木)や原子力発電所などが所在するオフサイトセンタなどの地域。資格は大学の理学または工学に関する学卒を卒業し、原子力施設の行政事務に二年以上、または原子力施設設計・建設・補修・検査・品質保証・運転に三年以上に従事した者

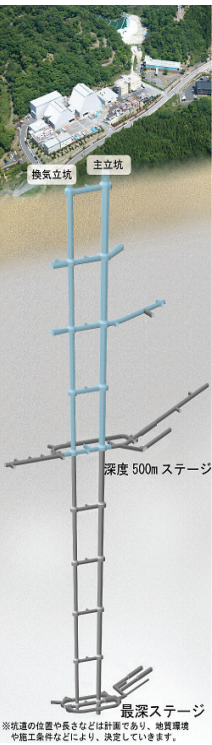
応募要領は、履歴書、卒業証明書、在職証明書、小論文(①実務経験からどのような貢献ができるか②今後の安全確保のあり方についての自らの所見③今回の福島第一原子力発電所事故に対する事業者および国の対応に対する所見)について、各千五百字程度を提出。書類選考の上、面接などの連絡をする。応募期間は十二月十五日まで。詳細は原子力規制委員会のホームページ、問い合わせは同庁総務課(電話03-5114-2103)まで。

医用原子力技術研究会興財団は、健康医学協会の支援を受け、患者支援体制の中核となる重粒子線治療専門医による「粒子線がん相談クリニック」を二日、東京都千代田区のホテルニューオータニ二内に開院した。

同クリニックは、我が国初の重粒子線がん治療の「セカンドオピニオン外来」となり、がんに対して幅広い知識を有した重粒子線治療施設の専門医が交代で相談に当たる。診療は完全予約制(電話03-3133-3910五五六)。診療日は火曜午後、木曜午後、土曜日午前。

地下500mの世界掘削構想の半分達成

原子力機構 瑞浪超深地層研究所



岐阜県にある原子力機構の瑞浪超深地層研究所。主立坑の地下五百メートル地点

高レベル放射性廃棄物の地層処分のための研究開発を花崗岩層で行っている岐阜県にある原子力機構・瑞浪超深地層研究所では、主立坑と換気立坑の二本の縦穴が掘削深さ地下五百メートルに達したあと、七月三十日には両立坑を結ぶ約四十メートルの横穴が貫通している。同研究所では、研究スケジュールの第三段階として二〇一〇年度から五年計画で「研究坑道を

利用した研究段階」に入っており、今年度はその中間年。深度五百メートル地点で横穴を左右にさらに伸ばし、研究アクセス坑道を設置する。両立坑の最深ステージは深度一千メートルを目標にしており、今後も、深度百メートル毎に両立坑を横穴でつなぐ予備ステージを設けながら、地質環境や施工条件などを考慮して決定していく方針だ。

TENEX

Leading Supplier of Nuclear Fuel Cycle Goods and Services



株式会社テネックス・ジャパン
TENEX-JAPAN Co.,

東京都港区虎の門5丁目11番2号 オランダヒルズ森タワー14F
(Tel):03-5776-1511 (Fax):03-5776-1512 (E-mail):info@tenex.co.jp